

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5510035	看護英語Ⅰ	2年			1	医療・看護分野における頻出語彙、構文、表現を習得し、リーディング、リスニングを中心とした語学演習により、看護師として必要な英語コミュニケーション能力の基礎力を身につけます。	(1) 看護や医療に関する英文を読み、内容を正確に理解できる。 (2) 看護や医療に関する英文の読解に頻出する語彙、文法、構文が理解できる。 (3) 看護や医療に関する英文や会話を聞いて、内容を理解できる。 (4) 患者の症状を聞いたり、患者へ指示や説明をするための基本的な英語表現が理解できる。	3					3
5510040	看護英語Ⅱ	2年			1	This course is designed to help 2nd-year nursing students improve their English communication skills. In addition to increasing their knowledge of specialized medical terminology, students will learn how to express themselves accurately in English.	The learning of specialized medical vocabulary and the practicing of dialogue in a nurse-patient communication context will enable the students to communicate comfortably in diverse communicative workplace settings.	3					3
5510045	人間心理Ⅰ	1年			2	人は、苦しみを避け、自己の幸せ・安楽を求める利己的な存在である。しかし、人は、常に他者との関わりで生きている。その意味で、人は、利他的・道徳的であるべきである。「行動科学」では、人の行動と心理との関係を学び、他者や社会に対して適切な行動をとることができる資質を培う。また、人が病気になることときの心理と行動、さらに、人の習慣や行動が健康や疾患に与える影響について理解を深める。<ディプロマポリシーとの関係>医療人として適切な判断力・行動力コミュニケーション能力 問題解決・自己研鑽能力	1.人の行動は、個の価値観や幸福観、感性、経験、欲望、利己・利他的感覚、理性、道徳的観念などさまざまな要因により規定されることを理解できる。2.他者の心理や行動を理解・支持し、良好な人間関係を構築できる。3.健康における精神と身体との関係を説明できる。4.タバコ、アルコール、危険な性行為、食生活・運動不足など人の習慣・行動は、さまざまな病気の原因やリスクになることを説明できる。5.人の行動変容と疾病予防、健康増進について具体的に述べることができる。	3	3	2	2	1	1
5510055	感染と免疫	1年			2	病原微生物と免疫の仕組みの基本を知り、各種感染症や免疫疾患について学ぶ。人間や健康を総合的にとらえ、身体状態をアセスメントし、根拠に基づいた看護を提供できるように看護実践に必要な基礎的知識や、地域住民に健康情報を提供できる知識を習得する。	1. 各種病原微生物の生物学的特異性と抗菌剤の作用機序について説明できる。2. 病原微生物による感染症の診断、予防の概要を説明できる。3. 免疫システムの機能とその破たんによって生ずる状態を説明できる。4. 特殊な感染症(日和見感染、院内感染、薬剤耐性菌)について理解できる。5. 院内感染予防について説明できる。	2	3	3	2	2	1
5510060	生命科学の歴史と倫理	1年			2	医師、看護師を含む医療人は、個人として、専門職集団として、患者や社会の信頼に値する道徳および倫理を身につけ、行動する必要がある。患者中心の視点より、患者に対して誠実、公正な態度で接し、常に平等な医療を提供し、説明責任と守秘義務の遵守に努め、利益相反の適切な管理が求められる。組織やチームにおいて協調性・リーダーシップを発揮し、相手を理解し、多様な価値観を受容し、適切な役割を担う必要がある。本科目では、医師、看護師を目指すものとして求められる使命、役割および心構えについて理解を深め、適切に行動するための基本姿勢を修得する。	1.人の命と健康を守る医師・看護師の職責を説明できる。2.ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、および医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。3.患者及びその家族の秘密を守り、医師・看護師の義務や医療倫理を遵守することができる。4.患者の基本的権利を説明できる。常に患者中心の立場に立って、患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援することの重要性を理解できる。5.患者の心理・社会的背景を理解し、患者及びその家族と良好な関係性を持つことの重要性を理解できる。6.患者・家族の話を傾聴し、共感することの重要性を理解できる。7.医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制を説明できる。8.医療上の事故等(インシデントを含む)や医療関連感染症(院内感染を含む)等を理解し、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することの重要性を説明できる。9.医療上の事故等を防止するための、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)の重要性を説明できる。	3	2	1	3	1	3
5510065	形態と機能Ⅰ	1年			2	・ヒトの構造と機能を関連づけて学習する。・細胞、組織学、筋骨格系、消化器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系について解剖学及び生理学について学習する。・指定した教科書、プリント、模型等を用いて授業を行い、人体の立体的な構造について説明する。・後期には人体解剖学実習を行い、実際にご遺体に接する機会であり、解剖学の知識だけでなく、命の尊厳について学習します。	看護師になったとき、患者様の訴えを正しく理解し、病気の本来を見極めるために必要な知識を習得する事を目標とする。看護学を学習するために必要な基礎知識を習得し、アセスメントや看護援助の基礎を確立することを目標とする。	2	3				
5510070	形態と機能Ⅱ	1年			2	ヒトの構造と機能を関連づけて学習する。中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、感覚器系、生殖系、人体発生学、血液について解剖学及び生理学について学習する。指定した教科書、プリント、模型等を用いて授業を行い、人体の立体的な構造について説明する。	看護師になったとき、患者様の訴えを正しく理解し、病気の本来を見極めるために必要な知識を習得する事を目標とする。看護学を学習するために必要な基礎知識を習得し、アセスメントや看護援助の基礎を確立することを目標とする。	2	3				
5510075	公衆衛生学	1年			2	公衆衛生・衛生の概要を教授する。個人の健康と疾病リスク、疾病予防と健康増進、社会の中で集団としてとらえた疾病予防と健康増進について教授する。様々な環境要因の中で営まれている生活環境と健康との関係を教授する。さらに、人々の生活環境をより良いものとする目的をもって行われる保健・環境・公衆衛生行政や地域における健康危機管理について概説する。なお、1年生前期の講義なので、講義の中で主要な疾病に関する概略の知識が持てるようになる。	1. 公衆衛生・衛生の概要を理解できる。2. 感染症や生活習慣病等の疾病リスクと予防、健康増進について理解できる。3. 疫学・保健統計を通して個人・集団の健康を考える方法を理解できる。4. 様々な環境と人間の健康との関わりを理解できる。5. 公衆衛生をすすめる行政施策を理解できる。6. 健康増進に関連する政策と保健活動について理解できる。7. 地域における健康危機管理及びその対策に関わる看護職の役割について理解できる。	2	2	1	1	3	2
5510080	栄養と代謝	1年			2	生命維持に必要な栄養素や生体構成成分の機能、それらの代謝および身体機能恒常性維持の機構について学ぶ。一方、健康の保持増進、疾病予防のために必要な食生活について学習する。さらには、治療の一環としての食事指導、経管栄養、病院における栄養サポートチームの意義などに必要な知識を習得する。	1. 各栄養素についてそれぞれの栄養的役割が説明できる。2. 食品群の特色を知り、栄養との関係について説明できる。3. 糖質、脂質、たんぱく質の代謝について理解し、説明できる。4. ビタミン、水分・無機質代謝と身体機能恒常性維持との関係について説明できる。5. 核酸代謝、遺伝情報の発現とその制御について、概略が説明できる。6. 対象者の栄養状態をアセスメントし、必要な対応が説明できる。7. 健康の保持増進、疾病予防のために必要な食生活について説明できる。8. 病院における栄養サポートチームの意義について説明できる。9. 疾病における食事指導、経管栄養などについて概要を説明できる。		2	3	2		
5510085	病理学の基礎	2年			2	病理学は、疾病及び病的状態の本質について全身または臓器の構造的・機能的異常として究明する学問である。病理学の基礎においては、疾病の本質を細胞・組織レベルで勉強し、生体の恒常性が乱れている病態とその結果によって生ずる病変について学習する。これまでに蓄積されてきた病気についての知識に根付いた治療方法、看護方法、介護を全人的にとらえながら実践する基礎的能力を習得する。	1. 疾病の本質を知る。2. 疾病の原因について、全身の各臓器に通ずる一般的な原理、概念について理解する。3. 全身の各臓器、組織に生じた病変について理解する。4. 看護のアセスメントと援助に必要な病理学的な基礎知識を習得する。			3	2		
5510092	保健医療福祉行政論	2年			2	保健医療福祉行政は、国の政策である基本的人権に基づく生存権の保障を確保するための行政である。人間の生命の問題、健康の問題、生活の問題に直結しており、行政が総合的に機能することで、人々が日常生活行動を安全に営むことが保障される。この科目では、我が国の基本的な制度の構造・機能及び、保健・医療・福祉に関する行政の活動の根拠を教授する。また、保健・医療・福祉行政サービスにおける連携の課題や保健医療福祉計画の政策立案過程についても幅広く概説する。	1. 保健、医療、福祉行政の変遷と基本原理が理解できる。 2. 国・都道府県・市町村の役割と機能、行政の単位と仕組みが理解できる。 3. 保健、医療、福祉に関する制度が理解できる。 4. 医療法を基礎とする医療提供体制について理解できる。 5. 社会保障制度の理念と仕組み、内容が理解できる。 6. 保健医療福祉の充実・発展に向けた行政機関と民間活動の連携及び政策立案過程が理解できる。	3	2	2	2	1	
5510100	薬理と薬剤	2年			2	薬物と生体の相互作用の結果起こる現象と、その機構を理解し、薬物による疾病の治療や再発予防に関する理論的な基礎を学ぶ。また、主要な疾患に用いる薬物について作用機構、薬物の特徴、使用時における看護師としての注意点を学ぶ。さらに薬物による副作用や相互作用および薬物の管理と与薬について学ぶ。	1. 医薬品を正しく、効果的に用いるために必要な事項について説明できる。2. 医薬品と関わりのある法令のうち、看護の現場で必要な事項を説明できる。3. 医薬品と生体の反応について理解し、説明できる。4. 主な治療薬について、使用される疾患と治療薬の特徴を説明できる。5. 医薬品の副作用、相互作用について理解し、説明できる。	2	3				

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5510200	疾病論Ⅰ	2年			2	疾病が身体や精神機能にどのような影響を及ぼすのかを学習する。疾病論Ⅰでは、循環器、呼吸器、消化器、内分泌・代謝の疾病の病態について学び、適切な看護計画を立て、実際のケアを行う際の基礎的知識を身につける。	1. 疾患に伴う自覚及び他覚的症候とその病態生理について説明することができる。2. 系統別に代表的な疾患が列挙でき、その疾病概念、診断(症状、理学所見、検査所見)、治療法、経過、予後について説明できる。3. 循環器疾患の症候、検査所見、病態と治療を説明できる。4. 呼吸器疾患の症候、検査所見、病態と治療を説明できる。5. 消化器疾患、肝臓膵疾患の症候、検査所見、病態と治療を説明できる。6. 糖尿病、代謝、内分泌疾患の症候、検査所見、病態と治療を説明できる。	2	3	3	2	2	1
5510300	疾病論Ⅱ	2年			2	疾病が身体や精神機能にどのような影響を及ぼすのかを学習する。疾病論Ⅱでは、アレルギー・膠原病、感染症、脳・神経、血液、運動器の病態について学び、適切な看護計画を立て、実際のケアを行う際の基礎的知識を身につける。臨床検査の基礎においては、さまざまな疾患を有する患者において、どのような検査が行われ、診断・治療に結びついているかを学習する。さらに、脳神経外科の手術、リハビリテーション医学の概要についても学習する。	1. 疾患に伴う自覚及び他覚的症候とその病態生理について説明出来る。2. 系統別に代表的な疾患が列挙でき、その疾病概念、診断(症状、理学所見、検査所見)、治療法、経過、予後について説明できる。3. 代表的な疾患を診断するための血液検査、生体機能検査、放射線検査及びそれらの検査所見について説明できる。4. 脳神経疾患と頭部外傷の病態生理を理解し、脳・神経外科における診断法、治療法が説明できる。5. リハビリテーションの意義、治療法、評価方法について説明できる。	2	3	3	2	2	1
5510400	疾病論Ⅲ	2年			2	疾病が身体や精神機能にどのような影響を及ぼすのかを学習する。疾病論Ⅲでは、1) 精神神経疾患、2) 女性生殖器疾患・産科、3) 腎・泌尿器疾患、4) 皮膚疾患、5) 眼科疾患、6) 耳鼻咽喉疾患、7) 歯・口腔器疾患の疾病の成り立ちと回復について学び、適切な看護計画を立て、実際のケアを行う際の基礎的知識を身につける。	1. 疾患に伴う自覚及び他覚的症候とその病態生理について説明出来る。2. 系統別に代表的な疾患が列挙でき、その疾病概念、診断(症状、理学所見、検査所見)、治療法、経過、予後について説明できる。3. 歯科口腔器疾患の病態と治療を説明できる。4. 皮膚疾患の病態と治療を説明できる。5. 耳鼻咽喉科疾患の病態と治療を説明できる。6. 腎泌尿器疾患の病態と治療を説明できる。7. 産科婦人科疾患の病態と治療を説明できる。8. 神経精神疾患の病態と治療を説明できる。9. 眼疾患の病態と治療を説明できる。	2	3	3	2	2	1
5510550	疫学・保健統計	2年			2	疫学・衛生統計は、現象をしっかりと観察し、分析を加えた上で状況を推測する科学的な方法の一分野である。事実の客観的な把握と、事実に基づいた要因の推測は、見えるものとしての現象あるいは現実から、その奥にある直接には目に見えない世界としての科学的論理を構築しようとする試みである。現実と理論との往復がこの学問の本質である。本科目では、疫学・衛生統計の基本的な考え方や見方を学修するとともに、様々な疾病における疫学や衛生統計の活用・応用について学修する。	1. 疫学・衛生統計の基本的概念・方法論を理解する。 2. 集団における健康問題を把握・分析する方法を理解し、説明できる。 3. 集団の健康状態を観察・推測する方法としての衛生統計や疫学を理解する。 4. 保健・衛生統計指標について学修し、わが国の保健衛生状態を各種統計を用いて説明できる。 5. 生活習慣病や疾患の疫学について学修し、個別の対策を考察できる。 6. 飲酒や喫煙などの生活習慣の管理について説明できる。 7. 感染症の基礎概念、流行の概念、対策等を説明できる。 8. 社会システムと健康との関連を学修する。	3	3	3	3	3	3
5541010	看護学原論	1年			2	看護とは何か、看護の対象となる人間を捉える看護の視点、看護の役割について学習する。また、看護実践の基盤となる知識と思考と、看護実践のプロセスについて学習する。さらに、看護学を学ぶ成人学習者として看護の質向上に向けた自己の課題と目標を確認する。この科目で学んだ看護学にかかわる専門知識は今後の学習の基盤となるものであるため、履修者の皆さんには学習内容の十分な理解を期待する。	1. 看護の対象となる人間を多面的・総合的に理解することにより、看護学の基盤としての人間観を育む。また、人間を取り巻く環境と健康生活との関連について理解し、看護学の基盤としての健康観を育む。2. 看護の目的、対象、方法に関する基本的な考え方について理解できる。3. 看護学を学ぶ者としての自己の課題と向き合い、今後の学習に関する学習意欲につなげる。	3	2	2	2	2	2
5541015	看護実践基盤技術演習	1年			2	看護師が行う看護行為を可能とする原理である看護技術についての理解を深める。すべての看護実践の基盤となる、対象の理解と相互の関係成立に欠かせないコミュニケーション技術、生命兆候を観察する技術、感染予防の技術について講義・演習を通して学習する。また、人間と環境との関係や療養環境の調整の方法を、講義・演習を通して学習する。	1. 看護実践の基本的要素と意義について理解し、自分の言葉で説明できる。 2. 看護実践の基盤となるコミュニケーションの意義、基本的知識、技術について理解し、基本的なスキルを習得できる。 3. 看護実践の基盤となるヘルスアセスメントの意義、基本的知識、技術について理解し、基本的な実施方法を習得できる。 4. 対象者の生活を整える援助について、安全、安楽、自立、感染予防、環境の調整、活動の観点から意義、基本的知識、技術を理解し、基本的な実施方法を習得できる。 5. 看護基本技術を用いて対象者を観察・査定した結果が一般的な正常範囲から異常かを判断でき、系統的に説明できる。 6. 一次救命処置(Basic Life Support:BLS)の基本的知識と技術について理解し、基本的な救急蘇生法を習得できる。	3	3				
5541035	看護理論入門	2年			1	看護理論は看護の現象を記述し、説明することで看護援助の方向性を見出すために活用される。看護理論には、それを活用することで対象となる人の理解が深まり、よりよい援助につながり、看護の質を向上させる目的がある。本科目では、看護理論を理解するための基礎的知識および看護理論家による代表的な看護理論の概要について学ぶ。	1. 看護理論の種類、現象を説明する範囲、理論の要素となる主要概念について理解する。 2. 看護理論の構成要素、分類がわかる。 3. 代表的な看護理論の概要について理解する。	2	3	2			
5541055	看護実践論	2年			2	看護過程は、健康問題の解決を目標として、個別的な看護ケアを個人や集団に対して組織的・系統的・計画的に行う看護活動のプロセスであり、問題解決過程と人間関係形成過程を基盤として展開される。本科目では、問題解決の思考過程を基盤として、収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントし、対象に必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論について学習する。	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスが理解できる。 2. 事例をもとに、看護実践で看護過程を用いることの意義について理解できる。 3. 問題解決過程や論理的思考といった看護過程の基盤となる考え方について理解できる。 4. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価といった看護過程の各段階における基本的な考え方が理解できる。	3	3	3	2		
5541065	療養生活援助技術演習	2年			2	看護師が行う看護行為を可能とする原理である看護技術についての理解を深める。健康的な生活や疾病からの回復を目指す看護の対象者の活動・食・排泄・清潔を中心とした療養生活を整える看護技術およびフィジカルアセスメントについて学習する。また、対象者に応じた看護援助を行うためにはフィジカルアセスメントを活用したアセスメントの基づくアセスメントの必要性を理解する。	1. 健康の維持・増進や回復を促すための療養生活を援助することの意義について理解し、説明できる。 2. 療養生活の援助を受ける人の生活機能の観察および援助に関するアセスメントの視点について説明できる。 3. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指した行為であることを理解することができる。 4. 療養生活援助を整えるための基本的な原理・原則に基づいた方法を習得する。 5. 対象者の状況に合わせて看護援助を応用する必要性を理解し、実際の援助方法について考えることができる。	3	3	3			
5541070	診療時援助技術演習	3年			1	医療を必要とする人の生活を支える看護ケアは、病気の治癒の促進や安寧を目的として行われるが、対象者の身体に何らかの侵襲を伴って実施されるため大変リスクの高い行為となる。将来、これらのケア技術を安全かつ安楽に正確に実施できるよう、また、多様な場面で活用できるよう"覚える"学習ではなく、科学的根拠に基づいた原理・原則を主体的に学び、状況に応じた方法を考えることに重きを置いた学習を行う。本科目では、科学的根拠に基づく援助技術の基本的方法を模倣レベルで習得し、対象者の状態と取り巻く状況に対応した個別的援助方法を導くための方法を理解する。それにより、医療・看護ケアに潜在するリスクを予見し、回避するためのリスク感性を育む。	1 基本的看護技術の原理・原則の基盤となる科学的根拠を理解できる。2 各看護技術について、科学的根拠に基づく基本的な方法が理解できる。3 援助技術の原理・原則を、[biomechanics] [作業域と行動の組み立て] [清潔と不潔] [経済性] [反応の観察と対応] [個別性] [対象者との協働]の観点から効果的に活用するための方法を考察できる。4 アセスメントに基づいて援助方法を導く論理的思考と実践の融合プロセスが習慣化できる。5 看護行為の安全に対する看護者の責務について考察できる。	3	3	3			

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5541075	看護実践演習	2年			2	看護援助の実践過程においては、常に理論的知識と経験に基づいた判断と推察によって導き出した看護実践を行っている。患者の背景、状況から描く患者像、および初期把握によって確認したことから、患者の全体像を捉え、看護援助の必要性を判断・推論し、看護実践する。この科目では、患者とその家族を対象に看護判断あるいは推論に基づく最良の看護援助を選択し、実践するための思考過程をPBL,シミュレーションなどを用いて、実践的に学び、実践過程の中でディブリーフィングをすることで、省察を繰り返し、看護実践における判断と推論する基礎的力を習得することができる。	1) 看護実践過程における看護判断と推論の基本的な考え方と必要性を理解する。 2) 臨床におけるアセスメントの段階を理解し、シミュレーターを用いた模擬事例に対して実践し、省察することができる。 3) 看護判断・推察に基づいて患者の状態変化や緊急時の看護援助を実践できる。	3	3	3	1		
5541080	成人看護学概論	2年			2	成人期にある人々を全人的・統合的存在として理解するために、ライフサイクルからみた成人の身体的・心理的・社会的な特徴および発達課題からみた特徴について学習する。また、多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活環境・習慣と関連づけて学習する。成人に対する看護技術の基盤となる主要な概念や理論を理解し、健康レベルに応じた看護実践の基盤となる知識、看護技術の基本について学習する。	1. 社会における「成人の定義」について考え、成人各期の特徴を説明できる。 2. 成人期にみられる主要な健康問題とそれに関連する要因について説明できる。 3. 健康レベルに応じた看護活動の特徴を説明できる。 4. 成人期に適用できる看護理論や看護概念の概要を説明できる。 5. 保健・医療・福祉の連携・協働について説明できる。 6. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる。 7. 成人期における倫理的課題について考えることができる。	3	3	3	2	2	2
5541090	成人看護学援助論Ⅰ	3年			2	急性期にある成人期の患者を対象に、疾患の特性や病態生理、機能障害を理解し、全人的理解に基づく看護の方法を学ぶ。周手術期看護の概念と手術前・手術中・手術後の看護、主要な手術を受ける患者の看護について学習し、周手術期看護に必要な知識と技術を修得する。またクリティカルな状態にある患者への看護を理解するための基礎的知識を学習する。	1. 急性期看護・周手術期の概念と看護の特徴を説明できる。 2. 急性期・周手術期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴および機能障害が理解できる。 3. 急性期にある患者や周手術期にある患者の異常の早期発見のための観察項目を説明できる。 4. 術後合併症を予防するための看護を説明できる。 5. 急性期・周手術期にある患者の回復に向けた看護を説明できる。 6. 周手術期にある患者をアセスメントし、優先順位を踏まえた看護が理解できる。	3	3	3	3	2	2
5541100	成人看護学援助論Ⅱ	3年			2	慢性期にある成人期の患者を対象に疾患の特性や病態生理、機能障害及び治療を理解し、それに応じた看護の方法を学ぶ。そして、QOLの維持・向上を目指し、慢性期から終末期の健康問題をもつ人の特徴を踏まえた長期の療養を支援する看護援助の方法を学習する。	1.慢性期の概念と看護の特徴を説明できる。 2.慢性期にある人とその家族を対象として全人的にとらえ、身体的、心理的、社会的、スピリチュアルの特徴について説明できる。 3.慢性期にある人の病態や治療過程を説明できる。 4.慢性期にある人の疾患や健康問題を理解し、それに応じた治療・症状に伴う看護援助の方法を説明できる。 5.慢性疾患を有する人とその家族のセルフマネジメントを高め、その人らしい生活の再構築ができる看護援助の方法を説明できる。 6.終末期にある人を全人的に理解し、QOLの維持・向上を目指した看護援助の方法を説明できる。 7.慢性期にある患者の事例をもとに、根拠に基づいた看護過程が展開できる。 8.慢性期看護に必要な看護技術を身につける。 9.慢性期看護の実践に向けた倫理的課題を理解し、説明できる。 10.保健・医療・福祉などの多職種連携や協働の必要性を理解し、医療チームにおける看護師の役割を説明できる。	3	3	3	3	2	2
5541110	老年看護学概論	2年			2	高齢者の身体機能の特性や精神・社会生活を理解し、その健康とQOLを高める援助、あるいは穏やかな最期を迎えるための援助の基礎となる理論的知識について教授する。	1. 老年看護の意義について説明できる。2. 生涯発達の観点からエイジングの多様性・個性を理解し、老年期の発達課題について説明できる。3. 高齢者の健康問題と看護の視点について概説できる。4. 高齢者の家族関係や社会参加の特徴を理解できる。5. 高齢者保健・医療・福祉制度に関する変遷と今後の課題について概観的に理解できる。6. 高齢社会における権利擁護について概説できる。7. 高齢者ケアに必要とされる各専門職の役割とチームアプローチの方法を理解できる。	2	2	3	2	2	1
5541120	老年看護学援助論	3年			2	加齢変化や高齢者特有の生活機能障害、健康問題に対する理解をもとに、高齢者ケアにおける多面的評価方法、ならびに健康レベルに応じた実践的な看護援助方法について教授する。	加齢や老年病による生活機能障害や健康問題についての理解を深め、その解決もしくは生活の維持・向上および穏やかな死を迎えるための看護援助の基礎となる理論的知識と技術を修得する。1. 高齢者の心身に生じる加齢変化と老年病の特徴について理解し、生活への影響と関係づけて説明できる。2. 高齢者の生活機能の評価方法について説明できる。3. 高齢者の生活機能障害や健康問題に適した看護援助方法について、自立支援の視点から理解する。4. 高齢者看護におけるケアの倫理的課題について関心をもち、主体的に考えることができる。	2	2	3	2	2	1
5541130	小児看護学概論	2年			2	子どもの成長・発達、子どもと家族を取り巻く環境やそれらの相互作用について理解し、健全な成長発達と健康増進に向けた支援のあり方について学ぶ。	1.小児看護の対象と看護の役割について説明できる。2.子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育の現状と課題について説明できる。3.乳児期から思春期までの子どもの成長・発達とその特徴について説明できる。4.子どもを養育する家族の発達とその特徴について説明できる。5.子どもと家族の相互作用について説明できる。6.子どもの健全な成長発達を促進するための支援について考えることができる。7.子どもの健康増進に向けた支援について考えることができる。	2	2	3	2	2	
5541140	小児看護学援助論	3年			2	疾患や障がいをもつ子どもとその家族に対して、発達段階を踏まえ、かつ科学的根拠に基づいた看護を行うために必要な基本的知識と援助方法について学習する。	1.健康障がいや子どもの成長発達や生活におよぼす影響について説明できる。 2.子どもの健康障がいや家族におよぼす影響について説明できる。 3.子どもに特徴的な疾患の治療・処置・検査・診察について説明できる。 4.子どもの特徴的な疾患の診療上・日常生活上において必要な看護援助について科学的根拠に基づいて説明できる。 5.健康障がいをもつ子どもと家族が社会で質の高い生活を送ることが出来るよう、保健・医療・福祉・教育などの多職種が連携・協働した支援を行う必要性と、支援チームにおける看護師の役割について説明できる。 6.健康障がいをもつ子どもとその家族の倫理的課題について考えることができる。 7.模擬事例の看護過程が展開できる。	2	3	3	2		
5541150	母性看護学概論	2年			2	性と生殖の視点から女性と家族の健康を考え、ウイメンズヘルスについての理解を深める。胎児期から老年期までライフサイクル各期の特徴と健康課題について理解し、母子およびその家族を対象とした援助に必要な知識と理論を学ぶ。また、女性と家族を取り巻く国内外の心理的・社会的・倫理的問題について学び、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて考える。	1 生殖の意義を理解し、母性看護の役割について説明できる。2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念、意義を理解し、女性の健康について考えることができる。3 女性と家族をライフサイクルの視点で捉え、各時期の発達段階の特徴、健康上の問題や課題について説明できる。4 女性の健康を保持・増進するための基礎知識を習得する。それを支援するための保健システムについて理解し、ウイメンズヘルスを促進するための看護の役割について理解できる。5 生命の尊厳、多様化する性意識への理解を深める。	3		3	1	1	2
5541160	母性看護学援助論	3年			2	妊娠・分娩・産褥・育児期の女性と新生児、および家族の看護課題と看護援助に関する基本的知識と技術を習得する。また、対象の進みに着目するウェルネス的な看護過程の展開について学習し、対象のセルフケア能力向上に向けた援助、ヘルスプロモーションを支援できる発展的看護について考える力を培う。出生前診断などの倫理的問題や不妊、高齢出産などのハイリスク母子・家族への援助について学び、考える。	1 妊娠・分娩・産褥・子育て期にある女性と家族の心身の生理的変化について理解できる。2 妊娠・分娩・産褥・子育て期にある女性と家族の健康課題をウェルネスの視点で捉え、看護過程の展開ができる。3 対象のセルフケア能力向上に向けた援助、ヘルスプロモーションを支援できる看護を考えることができる。4 妊娠・分娩・産褥・子育て期にある女性と家族のソーシャルサポートについて説明できる。5 胎児・新生児の生理的特徴と援助について理解できる。6 母子に対する基本的な看護技術を習得し、実施できる。7 ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児について理解できる。	2	3	3	2	1	
5541170	精神看護学概論	2年			2	精神看護の対象と目的・機能、精神の健康と不健康、正常と異常の概念、心の構造・機能、ライフサイクルからみた各々の発達段階の特徴や課題、防衛機制について講義し、精神看護の対象となる人々の心理社会的特性をふまえた支援のあり方について概説する。次に精神保健・医療・看護の歴史の変遷について述べ、精神保健福祉法など関連法規・行政等についてふれ、精神障がいをもつ人の人権擁護と倫理について学ぶ。	1. 精神看護の対象・目的・機能について説明できる。2. 心の構造や機能、心身の関連、健康-不健康の概念について説明できる。3. ライフサイクルからみた各々の発達課題における心の発達と危機について説明できる。4. 人々の生活の場での生じやすい心の問題を挙げ、その援助について考える事ができる。5. 病を体験する人々の心の特徴について理解し、さまざまな障がいをもって生活する人々の生活の困難さについて考える事ができる。6. 精神保健医療・看護・福祉の歴史の変遷と現状について説明できる。7. 精神保健医療の場における他職種間の機能や連携のあり方、看護の役割を理解できる。	2	2	3	2	1	3

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5541180	精神看護学援助論	3年			2	精神看護学概論で学習した知識をもとに、精神障がいをもつ人々に焦点をあてて看護実践に必要な基本的知識と援助方法について学ぶ。 そして精神障がいをもつ人を取り巻く環境や生活の場にも目を向け、自立と社会参加、権利擁護に向けた地域生活支援の方法について学ぶ。	1. 主要な精神疾患(精神障がい)の特徴や症状、経過の特徴について述べるができる。 2. 精神障がいをもつ人への主な治療と看護について述べるができる。 3. 精神障がいをもつ人によくみられる症状へのアプローチの原則について述べるができる。 4. 精神障がいをもつ人の日常生活における援助方法について理解できる。 5. 治療的コミュニケーション技法について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人の回復過程に合わせた援助を考えることができる。 7. 精神障がいの程度やレベルに応じた社会参加の方法を考え社会資源の活用・援助について述べるができる。 8. 精神保健福祉法に基づき人権に配慮した療養生活・治療環境について理解できる。	3	2	3	3	1	1
5541190	在宅看護学	3年			2	在宅ケアにおけるの基本概念を理解し、地域包括ケアにおける在宅看護の意義と役割を明確にするとともに、在宅看護を提供する方法について学ぶ。 疾病や加齢に伴って健康障害をもつ在宅療養者とその家族について理解したうえで、在宅療養者とその家族のセルフケア能力に応じた援助と、自己決定を尊重しながらQOLの維持・向上を目指す支援の方法について考える。また、在宅看護の特性とケアチームにおける看護職の役割や訪問看護の実際を理解し、在宅看護の基礎となる知識と技術を修得する。	1. 社会の変化のなかで在宅看護が発展してきた背景と現状について説明できる。2. 在宅療養を支える社会資源の活用方法について説明できる。3. 介護保険制度とケアマネジメントについて説明できる。4. 地域包括ケアシステムについて説明できる。5. 訪問看護の機能と役割について説明できる。6. 在宅看護過程について理解し、事例をもとに訪問看護計画を立案することができる。7. 療養者と家族の生活に沿った援助方法を工夫するための視点を理解することができる。8. 在宅ケアを展望し、今後の課題について主体的に考えることができる。	3	2	2	2	2	1
5541200	地域看護学概論	2年			2	個人・家族や集団・組織を含む地域を基盤とし、人々の健康な生活を予防的視点で支援する看護活動の基礎的知識を教授する。地域看護学の対象と領域の構成および公衆衛生看護の位置づけを解説する。また、保健師課程の科目として公衆衛生看護学が果たす機能・役割、公衆衛生看護学における理論や支援技術を教授する。	1. 地域看護の理念、公衆衛生看護の機能・役割が理解できる。2. 地域看護活動の歴史から地域における看護活動の場の特性と活動が理解できる。3. 公衆衛生看護活動の理論が理解できる。4. 公衆衛生看護活動の展開と地域診断について説明できる。5. 公衆衛生看護における支援技術の特徴が理解できる。	2	2	2	3	2	
5541210	地域看護学活動論	2年			2	地域で生活する人々を対象とした公衆衛生看護活動として、地域診断による潜在的・顕在的な健康課題の分析方法や、健康教育・家庭訪問等の地域住民への直接的な支援技術について教授する。発達課題別・健康課題別の保健活動としては、ライフサイクルをつなぐ母子・成人・高齢者への支援や、精神・感染症・難病などの健康課題別の活動方法について演習事例を取り入れながら教授する。	1. 地域集団の特性に応じた保健活動の展開方法を説明できる。2. 発達課題別の保健活動を説明できる。3. 異なる健康課題を持つ対象者への保健活動を説明できる。4. 健康課題を持つ対象者への各種社会資源の活用方法を説明できる。5. 地域診断を通じて、健康課題を導くことができる。6. 健康教育の意義と方法を理解し、健康教育を実施できる。7. 保健指導の基本を理解し、個別援助技術の手法を説明できる。8. 家庭訪問の意義と一連の過程を理解し、訪問事例を展開できる。	3	2	3	3	3	1
5541220	学校保健	3年			2	学校保健の目的は子ども達の健康・安全を守り、心身の発達を促すこと、将来にわたって健康・安全で活力のある生活ができるようにすることにある。近年、学校保健の課題は感染症、生活習慣、いじめ、虐待、不登校、薬物乱用、性の逸脱行動等、複雑多岐にわたっている。その中で、保健・医療・福祉の関係機関・職種や学校、家庭、地域社会が連携・協力しながら組織的、計画的に学校保健活動を推進していくことが求められている。学校保健は、養護教諭を志望する学生だけでなく、保健師、助産師、看護師を志望する学生にとっても、学んでほしい内容である。本授業では、学校保健の意義、目的、制度・法的根拠、ヘルスプロモーションに基づく学校保健活動の実際、養護教諭の役割・機能について概説する。	①学校保健の意義・目的について説明できる。②児童・生徒の抱える心身の健康課題について説明できる。③学校保健保健経営の内容について説明できる。④学校保健活動と教職員の役割について説明できる。⑤ヘルスプロモーションの理念と学校保健について理解できる。⑥学校保健活動の意義と内容について説明できる。⑦学校環境衛生について理解できる。⑧養護教諭の役割・機能について説明できる	3	3	3	3	3	2
5541221	学校保健	2年			2	学校保健の目的は子ども達の健康・安全を守り、心身の発達を促すこと、将来にわたって健康・安全で活力のある生活ができるようにすることにある。近年、学校保健の課題は感染症、生活習慣、いじめ、虐待、不登校、薬物乱用、性の逸脱行動等、複雑多岐にわたっている。その中で、保健・医療・福祉の関係機関・職種や学校、家庭、地域社会が連携・協力しながら組織的、計画的に学校保健活動を推進していくことが求められている。学校保健は、養護教諭を志望する学生だけでなく、保健師、助産師、看護師を志望する学生にとっても、学んでほしい内容である。本授業では、学校保健の意義、目的、制度・法的根拠、ヘルスプロモーションに基づく学校保健活動の実際、養護教諭の役割・機能について概説する。	①学校保健の意義・目的について説明できる。②児童・生徒の抱える心身の健康課題について説明できる。③学校保健保健経営の内容について説明できる。④学校保健活動と教職員の役割について説明できる。⑤ヘルスプロモーションの理念と学校保健について理解できる。⑥学校保健活動の意義と内容について説明できる。⑦学校環境衛生について理解できる。⑧養護教諭の役割・機能について説明できる	3	3	3	3	3	2
5541222	地域健康相談論	2年			1	地域看護においては、社会の多様な健康課題に対応すべく、個人、家族、多様な組織と信頼関係を構築し、直接的な支援、間接的な支援を行うことが求められている。 本授業では、公衆衛生看護活動技術の健康相談の基礎を学ぶことを目的としている。健康相談について講義・演習を通して理解し、地域看護が担う役割を遂行できるよう健康相談の技術を身につけることを目的とする。	1. 地域の中で実施される健康相談について、概念と特質を説明できる。 2. 地域住民のヘルスニーズが説明できる。 3. カウンセリング等の健康相談における基礎的技術を理解できる。 4. 健康相談の問題理解や相談支援の目標と方法を理解できる。 5. 健康相談の実際について説明できる。 6. 健康相談における地域連携について説明できる。 7. 諸問題の背景の分析と解決のための支援を理解できる	2	1	3	3	2	
5541230	地域看護学演習	4年			1	既習の地域看護学関連の授業・演習及び臨床実習での知識・技術を基に、地域の人々の健康な生活の維持・増進のために展開する公衆衛生看護活動を教授する。実際に、地域診断、家庭訪問、健康教育が実施できるように、シミュレーション学習やグループワークにより実践力を培う。	1. 都道府県および市町村の組織・機能が説明できる。2. 県保健所の保健活動の実際と県保健師の役割が説明できる。3. 市町村の保健活動の実際と市町村保健師の役割が説明できる。4. 地域診断を通じて、健康課題の抽出とその解決のための方法を考えることができる。5. 健康教育指導案の作成方法が理解できる。6. 家庭訪問における事例展開が理解できる。	3	2	2	2	3	
5541240	地域看護管理論	4年			1	公衆衛生看護活動を効果的に推進するために、1) 保健師業務管理、2) 保健事業管理、3) 地域管理、4) 人材育成、5) 健康危機管理、6) 他職種との連携について学ぶ。地域の多様な健康課題を解決するための地域マネジメントについて学ぶ。さらに、既習の地域看護学関連科目および実習での知識・技術を基に、公衆衛生看護学の学びを統合し、保健師として就業するために必要な知識、技術、態度を学ぶ。	1. 地域看護管理の機能が理解できる。2. 健康課題を解決するための地域看護管理の実際が説明できる。3. 地域ケアシステムづくりの実際が説明できる。4. 公衆衛生看護の人材育成について理解する。5. 健康危機管理や災害看護について説明できる。	2	3	2	3	3	

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5541250	看護情報学	3年			2	看護過程を展開するには、全段階において看護情報がどのように生成・変換・処理・利用されているのかに注目することが必須である。また、看護情報の検索・蓄積・伝達については、看護記録等について基本的事柄を学び、看護と情報との係わりをより具体的に習得することが必要である。本講義では、情報科学の医療・看護への応用や医療情報システムを理解し、その中で看護の位置づけを考える。また、看護情報学の理論を理解し、必要な看護情報を収集する方法、ならびに看護研究への応用について学ぶ。	1) 情報科学の基礎 ①情報の概念、意味、データとの関連が説明できる。 ②情報の一連の処理過程や標準化、共通化、機密保持等について説明できる。2) 看護過程と情報 ①看護過程における論理的思考の必要性について理解する。 ②看護記録の種類と内容について理解する。3) 看護情報の処理と標準化 ①看護情報の標準化について、必要と一般的な方法論を説明できる。 ②看護情報の標準化について、具体例を述べる。4) 看護情報の活用 ①実践・管理における看護情報の種類、処理過程、システムの概要について説明できる。 ②教育・研究における看護情報の種類、処理過程、システムの概要について説明できる。 ③EBNの概要、方法について説明できる。4) 情報に関する倫理 ①個人情報保護法に基づく患者情報の管理の必要性について述べる。 ②患者情報の管理の具体的方策を説明できる。5) 病院情報・看護情報システム ①病院情報システムについて、現在の状況や今後の発展性について説明できる。 ②病院情報システムの中での看護情報システムの在り方、展開について述べる。 ③地域保健医療情報システムの具体例をあげ、地域看護との関連性や位置づけを説明できる。	2		1	2	2	1
5541251	看護情報学	2年			2	看護過程を展開するには、全段階において看護情報がどのように生成・変換・処理・利用されているのかに注目することが必須である。また、看護情報の検索・蓄積・伝達については、看護記録等について基本的事柄を学び、看護と情報との係わりをより具体的に習得することが必要である。本講義では、情報科学の医療・看護への応用や医療情報システムを理解し、その中で看護の位置づけを考える。また、看護情報学の理論を理解し、必要な看護情報を収集する方法、ならびに看護研究への応用について学ぶ。	1) 情報科学の基礎 ①情報の概念、意味、データとの関連が説明できる。 ②情報の一連の処理過程や標準化、共通化、機密保持等について説明できる。2) 看護過程と情報 ①看護過程における論理的思考の必要性について理解する。 ②看護記録の種類と内容について理解する。3) 看護情報の処理と標準化 ①看護情報の標準化について、必要と一般的な方法論を説明できる。 ②看護情報の標準化について、具体例を述べる。4) 看護情報の活用 ①実践・管理における看護情報の種類、処理過程、システムの概要について説明できる。 ②教育・研究における看護情報の種類、処理過程、システムの概要について説明できる。 ③EBNの概要、方法について説明できる。4) 情報に関する倫理 ①個人情報保護法に基づく患者情報の管理の必要性について述べる。 ②患者情報の管理の具体的方策を説明できる。5) 病院情報・看護情報システム ①病院情報システムについて、現在の状況や今後の発展性について説明できる。 ②病院情報システムの中での看護情報システムの在り方、展開について述べる。 ③地域保健医療情報システムの具体例をあげ、地域看護との関連性や位置づけを説明できる。	2		1	2	2	1
5541260	看護研究方法論	3年			2	看護の質を高めるための看護学研究の意義、看護研究のさまざまな方法について学ぶ。研究を進める上では、従来の研究成果を整理し、体系化する必要がある。そのために必要な文献の検索、批判的な読み取りの力を養う文献クリティークをおこなう。質問紙を用いた研究を取り上げ、研究テーマの設定と研究計画の立案、調査データの分析方法等、看護研究の実践について演習を進め、結果をまとめる力を養う。 以上より、看護専門職として生涯にわたって看護学を探究していく研究的態度を培う。	1 看護学の研究が、看護の質の向上と看護学の発展に必要不可欠であることを理解する。2 看護の現象を明らかにするために用いられるさまざまな看護に関する研究デザイン、方法およびその適用について説明できる。3 研究における倫理と研究実施における倫理的配慮について概説できる。4 研究プロセスの構造とポイントを概説できる。5 研究の基盤となる文献検索の意義と方法を概説できる。6 文献をクリティークすることができる。7 研究目的を達成するための研究計画を立案することができる。8 調査データの解析結果を解釈し、結果をまとめることができる。	3	3	2	2	2	1
5541270	卒業研究	4年		2		3年次の「看護研究方法論」で習得した知識と技術を活用して、担当教員の指導・助言を受けながら、主体的に研究に取り組む。自己の看護への関心や探究心を研究への動機として、十分な文献検討を経て研究テーマと研究目的を設定する。目的を達成するための具体的で、且つ無理のない実現可能な研究計画を立てて実行する。成果を発表し、集録にまとめる。 この看護研究のプロセスを主体的に辿る経験をおとして、科学的・論理的思考力を養うとともに、看護専門職として生涯にわたって看護学を探究していく研究的態度や創造力、自律的態度を培う。	1. 自己の研究動機に基づいて文献検討を行い、関心領域の知見を整理して、研究テーマを導出できる。2. 研究の目的を明確に位置づけ、目的の解明のための具体的且つ論理的・一貫性のある研究計画を立案する。3. 研究の実施に当たっては、「看護研究倫理指針」に基づいて適切に倫理的配慮を実行することができる。4. 適切な方法を用いてデータの分析を行うことができる。5. 目的・方法・結果・考察の形式で構成された、論理的・一貫性のある発表ができる。6. 発表会での批判を吟味して、所定の書式を用いて論文形式の報告書(A4版4・2枚)にまとめることができる。	3	3	2	2	2	1
5541280	看護管理論	4年			2	看護管理に関する知識は、看護管理者だけに求められるものではない。看護の組織に属するメンバー1人1人が看護管理の知識を持ち、それを臨床や教育・研究など看護が実践されるあらゆる場で活用することにより、豊かで質の高い看護が実現される。看護を組織的に実践していくことの意義と課題を、現場のミクロ的視点と、社会のニーズや政策などのマクロ的視点を交錯させながら学び、保健医療福祉教育のネットワークの要としての看護職の役割と機能を認識し、看護専門職としての将来像を展望する。看護専門職としての質の高い看護サービス提供に対する責務の観点から、看護管理の必要性と重要性を認識するとともに、その展開における基本的方法についての理解を深め、実践への見通しを持つ。	1.なぜ看護管理を学ぶのか。サービスとしての医療・看護という考えと、看護サービスのマネジメントとしての看護管理の意義を理解する。2.組織とその機能、リーダーシップの定義、マネジメントの定義、管理モデルの変遷、変化理論と問題解決の方略等に関する諸理論を理解し、組織運営におけるリーダーシップの重要性を認識する。3.看護倫理に根ざした実践システムとしての看護管理のあり方、看護管理者と看護実践者の果たす役割、専門職としての課題を理解する。4.看護の質向上におけるキャリア開発の意義、キャリア開発のための個人と組織の方略、キャリア開発の制度、プロセス、について理解する。5.医療におけるリスクマネジメントの歴史、概念、理念、持つべき視点、基本的な方法論について理解する。6.病院の組織的な安全管理体制とシステム作り、リスクの把握・分析・対応のサイクルとその方法について理解し、医療組織の一員として、看護専門職としての役割を理解する。7.保健医療福祉教育のネットワークの要としての看護職の役割と機能を認識し、看護専門職としての将来像を展望する。	3	3	1	3	2	1
5541300	家族看護論	4年			2	看護の対象としての家族について、家族看護の実践に向けて臨床や地域等の現場における家族支援のあり方を理論に基づく理解を深め、発展的な知識・技術を教授します。	1.家族看護で用いる理論を概観し、看護の対象としての家族について理解する。 2.家族のライフサイクルに応じた発達段階の特徴と、発達課題を説明できる。 3.家族員が病気になることによる家族の危機について理解する。 4.家族に関する事例を理論(科学的根拠)を用いて分析し、家族支援の在り方を検討する。 5.家族看護における倫理的課題について理解する。	3	3	3	2	3	2
5541310	緩和ケア論	4年			2	緩和ケアの概念並びに患者とその家族が抱える全人的苦痛・苦悩を理解し、緩和に向けて必要なケアを実践するための看護上の知識を学習する。また、事例を通して、病とともに生きる人々とその家族の体験を理解し、全人的な看護実践に向けて適切に援助を提供する方法を検討する。そして、一連の学習過程を通じて、援助者としての姿勢と自己の死生観を明確化する。	1.緩和ケアの概念を理解する。 2.臨床看護実践上で用いる理論やモデルを概観・理解し、対象理解に活用する。 3.発達段階や病期、疾患により異なる全人的苦痛と苦悩を理解する。 4.対象の全人的理解に基づき、苦痛緩和に向けた看護の方法を検討・討議する。 5.緩和ケア領域における倫理的諸問題や課題を理解し、看護支援を思考・討議する。 6.認定看護師(緩和ケア・心不全看護)の役割と実践を理解する。 7.緩和ケアにおける地域連携の実態を理解する。 8.緩和ケアに関する事例検討や講義、演習を通じて、援助者としての姿勢と自己の死生観を明確化する。	3	3	3	3	2	2
5541330	看護理論講読	4年			1	看護理論は看護の現象を記述し、説明することで看護援助の方向性を見出すために活用される。看護理論を活用することで患者の理解が深まり、よりよい援助につながり、看護の質を向上させる目的がある。この科目では、これまでの授業で取り上げていない看護の新しい考え方やケア方法について、オムニバス形式で講義します。授業や実習で学んだことや疑問に思ったことをふまえてながら、新たな知見を得たり看護を再考することによって、これからの看護の方向性について展望します。	1. 看護の理論と実践の関連性、および理論の意義と課題について説明できる。2. 近年話題になっている看護の新しい考え方、理論、ケア方法について理解する。3. これまでに学んだことや疑問に思ったことをふまえて看護について再考し、自分自身が将来めざす看護の方向性について自分の考えを述べることができる。	2	2	3		1	1
5541340	看護教育論	4年			1	この科目では、社会の変化や看護職のニーズをふまえて、看護専門職(保健師・助産師・看護師)の生涯教育という観点から、看護の基礎教育と卒業後の継続教育について学ぶ。特に、歴史的変化した大きい看護の基礎教育制度の変遷とその意味、および継続教育と上級資格制度について学び、これからの看護教育のあり方と自分自身の職業生活の展望について考える。	1. 看護教育の目的、特殊性、価値、現在の課題について理解する。2. 看護職の基礎教育制度とこれからの動向について理解する。3. 看護職の卒業後継続教育システムおよび上級資格制度について理解する。4. 看護専門職としての自分自身の継続教育の展望について考える。	2	3	2			

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実に発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5543005	基礎看護学実習	2年			3	看護実践基盤技術演習、看護実践論などの既習の知識や技術を活用し、対象者と援助の人間関係を築き、対象者の全体像を踏まえて健康ニーズを把握する。そして、患者の健康状態の回復あるいは自立を目指した看護援助を提供し、評価するといった一連の援助プロセスを実践する。これらの体験を通して、看護者としての関わりと援助のあり方を学ぶ。さらに、事例検討を通して自身の看護者としての看護観、人間観の構築を目指す。	<p>I. 看護専門職に求められる基本的な能力と態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の基盤となる患者と援助的な関係を形成することができる 2) 患者を全人的に理解し、看護のあり方について考えることができる 3) 患者の尊厳と権利を守ることができる 4) 患者の安全に配慮した行動をとることができる 5) 医療チームの一員として自覚と責任を認識し、行動することができる 6) 看護学生として実習に主体的に取り組み、学びを深めることができる <p>II. 看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護に必要なとされる観察・コミュニケーションを行うことができる 2) 診療記録や患者自身から看護に必要な情報を取捨選択して収集し、アセスメントすることができる 3) 患者の健康問題をあげることができ、その優先順位を判断できる 4) 個別性を考慮した看護計画・実践ができる 5) 実践した看護の評価を、患者の言動をもとに行うことができる 6) 日々変化する患者のニーズに応じて計画を修正しながら実践できる 7) 日々の看護行為の過程で収集された情報を再整理しながら全体的な看護計画の立案ができる <p>III. 看護過程に基づいた療養生活援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の状態・状況に応じた援助の方法を選択できる 2) 患者に起こりうるリスクを考慮し、安全を確保できる 3) 患者の安楽に配慮した援助ができる 4) 患者の自立度に合わせて援助ができる 5) 患者を観察しながら適切な援助ができる 6) 科学的根拠に基づいたケアの提供ができる 	3	3	3	3		
5543030	成人看護学実習Ⅰ	3年			3	成人の特性を踏まえ、急性期・周手術期にある対象を全人的に理解し、患者とその家族のもつ健康問題に応じた看護の実践を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、急性期・周手術期にある患者とその家族を理解する。 2. 成人期の身体機能と手術侵襲の関連から、患者に必要な看護を判断する。 3. 周手術期にある患者とその家族のもつ看護上の問題を明確化し、必要な看護を計画、実施、評価する。 4. 手術を受ける患者とその家族の心理的特徴を理解し、患者とその家族と適切な人間関係を築く。 5. 患者とその家族を取り巻く医療チームにおける看護職の役割と他職種との連携の実践を学ぶ。 6. 患者の意思決定を支え、実践を通して対象の人権を尊重した態度を身につける。 7. 安全な医療・看護の提供に関する基礎的知識と技術を身につける。 8. 実習を通して自己の学習課題に取り組める。 		3	3	3		
5543040	成人看護学実習Ⅱ	3年			3	成人期の特性を踏まえ、慢性期にある対象を全人的に理解し、QOLの維持向上を目指し、患者の健康問題に応じた看護の実践を学ぶ。そして、臨床での実践的学習を通して、慢性期看護やがん看護に関する看護実践能力を培う。	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、慢性期にある患者を全人的に理解する。 2.成人期の身体機能と慢性期にある患者の病態、治療・療養過程、セルフケア能力との関連から、患者に必要な看護を判断する。 3.看護実践の見学や体験を通して、終末期にある患者とその家族を理解し、QOLの維持・向上に向けた看護について考える。 4.がん患者の全人的苦痛(トータルペイン)を理解し、緩和ケアの実践を理解する。 5.先端がん治療センターや慢性期病棟において、治療過程にある・慢性期にある成人期の患者1名を受け持ち、看護過程に沿って看護を展開する。 6.緩和ケア病棟において、担当看護師と共に行動し、緩和ケアの実践の見学や看護体験を行なう。 <p>実習目標の達成状況と、次の内容により総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7.患者の意思決定を支え、実践を通して対象の人権を尊重した態度を身につける。 8.安全な医療・看護の提供に関する基礎的知識と技術を身につける。 9.実習を通して自己の学習課題に取り組める。 10.慢性期にある患者の看護上の問題を明確化し、必要な看護を計画立案・実施・評価する。 11.長期にわたり治療を受けながら生活する患者とその家族の心理的状況を理解し、患者とその家族と適切な人間関係を築く。 12.保健・医療・福祉などの多職種連携や協働の必要性を理解し、医療チームにおける看護職の役割と 	3	3	3	3	2	2
5543050	老年看護学実習Ⅰ	3年			3	加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者を理解し、多様な場で障がいをもちながら生活している高齢者とその家族に必要な看護を査定し実践するための基礎的な能力を修得する。また、継続看護および他職種・他部門との連携の必要性とチームにおける看護職の役割を理解するとともに、看護職者としての倫理観や高齢者観を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢患者の個別性を身体的、精神・心理的、社会的、生活史の側面から説明できる。 1) 加齢に伴う高齢者の一般的特徴を理解できる。 2) 患者の生活史を理解したうえで、現在の身体的、精神・心理的、社会的状況について理解できる。 3) 患者の加齢や疾病に伴う健康上の問題を把握できる。 2. 患者の心身の苦痛を理解するとともに、二次的障害のリスクを予測し、安全で安楽な療養生活が送れるように援助できる。 1) 患者の心身の苦痛を理解できる。 2) 患者の二次的障害のリスクを予測できる。 3) 患者の心身の苦痛緩和や二次的障害を予防するために必要な看護計画の立案、実施、評価ができる。 3. 患者の自立と依存の欲求を理解し、その人に適した自立への援助ができる。 1) 患者の自立と依存の欲求を理解できる。 2) 自立に向けた看護計画の立案、実施、評価ができる。 4. 患者の家族が抱える問題と必要な援助について説明できる。 1) 家族の状況および患者と家族との関係を把握できる。 2) 患者や家族の言動の意味を捉え、家族が抱える問題を把握し、必要な看護計画を立案できる。 5. 継続看護の必要性を考察し、保健・医療・福祉の専門職者の連携や協働のあり方および看護者の役割を説明できる。 1) 入院患者にかかわっている職種・部門を理解し、今後の生活を支えるために必要な社会資源の活用について説明できる。 2) 他職種・他部門との連携・協働における看護者の役割について説明できる。 6. 高齢者の人権を保障し、倫理的配慮のある看護について説明できる。 1) 倫理的ジレンマに気づき、その状況や背景要因を考え説明できる。 2) 倫理的ジレンマを解決するための方法について説明できる。 	2	2	3	3	2	
5543060	老年看護学実習Ⅱ	4年		1		加齢や疾病に伴う健康上の問題をもつ高齢者を理解し、多様な場で障がいをもちながら生活している高齢者とその家族に必要な看護を査定し実践するための基礎的な能力を修得する。また、継続看護および他職種・他部門との連携の必要性とチームにおける看護職の役割を理解するとともに、看護職者としての倫理観や高齢者観を養う。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題をもって施設で生活する高齢者とその家族の特性を説明できる。 2. 高齢者が抱えている健康問題や、望む生き方・暮らし方について説明できる。 3. 健康問題をもつ高齢者の日常生活上の課題を理解し、残存機能と強みを活かしたケアの実践について説明できる。 4. 高齢者の反応を捉えながら、ニーズに沿った援助を施設スタッフとともに実施できる。 5. 施設内のチームケアのあり方について説明できる。 6. 高齢者ケアの場における諸機関との連携・協働のあり方について説明できる。 7. 高齢者ケアの場における高齢者の人権擁護の課題を明らかにし、看護者の役割を説明できる。 	2	2	3	3	2	

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間・健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5543070	小児看護学実習	3年			2	疾患や障がいを持つ子どもを全人的に理解し、子どもとその家族に必要な看護を、個々の成長・発達や健康状態に応じて考え、論理的根拠のもとに実践するための基礎的能力と態度を養う。	1.子どもを一人の人間として尊重し、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。2.子どもおよび家族と援助的人間関係を築くことができる。3.子どもの疾患、検査、治療について理解できる。4.子どもの身体的影響について、小児看護技術を用いて観察、測定し、意図的に情報を得ることができる。5.子どもと家族の心理・社会的影響について、発達段階、疾患や障がいの状態、入院、家族関係などをふまえ、意図的に情報を得ることができる。6.子どもと家族の入院前、退院後の生活について情報を得ることができる。7.子どもと家族の情報(主観的・客観的)をもとに、論理的根拠をもってアセスメントできる。8.アセスメントをもとに看護関連図を描き、看護上の問題を特定(抽出・統合)できる。9.看護上の問題に対する目標を明確にし、発達段階や疾患の状態、入院環境、生活リズムなどを考慮した個別性のある看護計画を具体的に立案できる。10.立案した看護計画を子どもの状態にあわせて安全、安楽に実施するための準備(ケアの事前練習、戦略的な行動計画等)を行うことができる。11.立案した看護計画(行動計画)を子どもの状態にあわせて安全(十分な事故防止への配慮)、安楽に実施することができる。12.ケアの実施時は、事前に子どもと家族に説明し、同意を得ることができる。13.実施した看護の評価を行い、必要に応じて看護計画を修正できる。14.多職種による支援に参加し、医療、教育、保健、福祉における望ましい連携・協働について考えることができる。15.保健医療チームの一員として、子どもと家族の生活やニーズに添った退院支援を実施できる。16.グループカンファレンスにおいて自己の学びや考えを共有するために、積極的に発言することができる。17.情報管理を確実にを行い、個人情報保護につとめることができる。18.教員や指導者に適切に報告・連絡・相談することができる。19.積極的な挨拶や適切な言葉使い、身なり、態度で実習し、無断で遅刻や欠席をせず、集合時間や提出物の期限を守ることができる。20.看護者としての自己を評価し、課題を具体的に述べるができる。	3	3	3	3		
5543080	母性看護学実習	3年			2	妊娠・分娩・産褥(育児)期の女性と新生児およびその家族の身体的・心理的課題(問題)を理解し、周産期における援助とその方法を実践的に学ぶ。また、対象が持つ能力や強みを発揮できるための援助やセルフケア能力を高める援助について考え、学ぶ。退院後の子育て期の母親に必要な援助について学び、ソーシャルサポートの視点から母親と家族の支援について考える。	1. 妊娠・分娩・産褥・育児期および新生児期にある母親とその家族の身体的・心理的・社会的変化を理解し、看護計画を立案し、援助を行うことができる。また、実践した援助について振り返りができる。 1) 妊娠期 (1) 妊娠期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。(3) 胎児の成長・発育について理解し、アセスメントできる。(4) 妊娠期の異常について理解し、その予防にむけた援助や健康教育計画を立案できる。2) 分娩期 (1) 分娩第1～IV期の産婦の身体・心理状態、胎児のwell-beingについて理解し、産婦と胎児の健康課題(問題)についてアセスメントできる。(2) 分娩期の産婦のニードについて理解し、援助を考え、実践できる。 3) 産褥(育児)期 (1) 産褥期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的変化について理解し、健康課題についてアセスメントできる。(2) 対象の健康課題(問題)から適切な援助を考え、実践できる。(3) 産褥期に獲得が望まれる育児支援に関する知識・技術について理解し、適切な援助を考え、実践できる。(4) 新しい家族を迎える家族(父・きょうだい・祖父母など)の準備状態をアセスメントし、必要な看護について考える、実践できる。(5) 出産退院後の地域における生活で、母親の健康管理や育児における課題を探り、どのような支援が必要かについて考えることができる。(6) 行政の母子への支援サービス情報について理解し、活用できる。(7) 出生直後から母子分離を強いられた家族への看護について理解できる。 4) 新生児期 (1) 胎児と新生児の違いを理解し、新生児の母体外生活への適応上の健康課題(問題)をアセスメントできる。(2) 新生児の生理的変化について理解し、正常および正常からの逸脱をアセスメントでき、異常徴候の早期発見ができる。(3) ハイリスク新生児の看護の実践について理解できる。 2. 地域における母子支援活動の役割や方法について理解し、医療施設内外の多職種間の連携・協働について理解できる。3. リプロダクティブ・ヘルスにおける看護職者の役割を理解し、保健医療チームの一員としての責任を果たすことができる。4. 母性看護学における倫理的態度について理解できる。	2	3	3	2		
5543090	精神看護学実習	3年			2	精神障がいをもつ人を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、患者-看護師関係の成立・発展を通して、対象者および家族に必要な看護を判断し、自律性を尊重した看護を実践できる基礎的能力を養う。	1.精神障がいをもつ対象に対して、個別的な看護を実践する。2.患者-看護師関係の成立・発展の重要性とその方法について理解し、対象との治療的相互関係を築く。3.看護援助の振り返りを通して、対象理解と自己理解を深める。4.患者を取り巻く環境とその調整の必要性について理解する。	3	3	3	3	2	1
5543100	在宅看護学実習	3年			2	健康問題をもって在宅で生活する人々とその家族の特性を理解し、健康と生活とのつながりを総合的に捉えることにより、自立に向けた支援の基礎的能力を養い、生活者としての尊厳を基盤とした看護について学ぶ。健康問題をもつ在宅療養者とその家族について看護実践を通して理解し、在宅療養者とその家族のセルフケア能力に応じた看護計画を立案する。また、在宅ケアシステムにおける連携や協働の必要性、看護職の役割について理解する。	1. 訪問看護制度の概要を理解し、その機能、役割、意義について説明できる。2. 在宅看護過程を展開し、在宅看護における情報収集とアセスメントの視点から在宅療養者とその家族の健康上の課題を抽出することができる。3. 健康上の課題に対して目標を設定し、在宅療養者とその家族の生活に応じた具体的な計画を立案することができる。4. 在宅看護技術を理解し、在宅療養者やその家族に合った看護ケア及び生活援助について説明できる。5. 訪問看護ステーションの管理、運営、機能について理解し、他機関や他職種との連携について説明できる。6. 介護保険制度等にもとづく利用者のケアマネジメントについて説明できる。7. 在宅療養を支える社会資源の活用方法について理解し、地域における看護職の役割について説明できる。	2	2	3	3	2	
5543110	地域看護学実習Ⅰ	4年			3	地域看護学実習Ⅰは島根県内の市町村、保健所で3週間の実習を行う。地域診断、家庭訪問、健康教育、健康相談・健康診査、地区組織活動、関係機関との連携等の実習内容を体験することで、公衆衛生看護学に必要な知識、技術、態度を学ぶ。保健師国家試験を受験するために必要な科目であり、保健師課程で学んできた知識、技術を統合し実践をする科目である。	1. 地域の社会・経済・文化的特性をふまえた情報収集およびアセスメントを行い、健康課題を見出すことができる。2. 健康課題を解決するための保健事業を企画・立案、実施、評価、改善する過程が説明できる。3. 家庭訪問の一連の過程を理解し、個人・家族の健康課題を考えることができる。4. 個別支援事例の支援記録を書くことができる。5. 健康教育の一連の過程を展開し、実施することができる。6. 地域組織、グループの支援、育成について説明できる。7. 保健・医療・福祉との連携や、住民との協働における保健師の役割が説明できる。8. 健康危機の予防活動について理解できる。	3	3	3	3	3	
5543120	地域看護学実習Ⅱ	4年			1	労働者の健康に影響する労働条件・労働環境から健康課題を捉え、「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」の観点から対策を考える力を養う。また、生活習慣の改善を図る健康相談のロールプレイや教材の作成により、実践力の向上を図る。	1.労働者の健康に影響する労働条件や労働環境について理解できる。2.労働者の健康課題を労働との関連で理解できる。3.「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」の観点から労働衛生対策の実践を理解できる。4.労働者に対する健康相談の展開を考えることができる。5.労働者の健康管理を担う看護職の機能と役割について理解できる。6.労働者の健康管理を行う上での事業所内における組織的対応や、事業所外との関係機関・他職種との連携について理解できる。	2		2	2	2	
5543127	早期地域看護学実習	1年			1	人口及び疾病構造の変化や療養の場の多様化などから、看護職には地域の人々の生活に対応した看護実践が求められるようになった。この実習は、地域の人々と地域活動を通じて交流し、地域の人々の生活や健康観を捉える視点を養う。また、地域社会で看護の役割を果たすことについての意識・意欲を高めることを目的とする。	1) 地域の人の生活環境について説明できる。 2) 地域の人のライフスタイルについて説明できる。 3) 地域の人の健康に対する考え方について説明できる。 4) 地域の人の健康と生活環境・ライフスタイルの関連を考察できる。 5) 地域の人の生活環境・ライフスタイルや健康観の多様性を理解できる。 6) 今後、看護専門職を目指すものとして自覚をもって、主体的に学ぶことができる。	3	2	2		1	
543130	看護学総合実習Ⅰ	3年			1	本実習は、3年前期までに履修した知識、技術を統合し、模擬患者を用いた客観的臨床能力試験(OSCE; objective structured clinical examination)である。提示された患者事例において、疾患の理解、フィジカルアセスメントの実施方法の確認、看護問題の明確化及び看護援助の立案について、まず自己学習を行う。それをもとに、事前にフィジカルアセスメントと清潔ケアの技術練習を行う。これらの習熟度については、知識は確認テストとフィジカルアセスメントと清潔ケアの技術については模擬患者を用いたOSCEによって評価する。同時に、医療従事者として、ふさわしい身だしなみをチェックする。	1.患者に対してフィジカルアセスメントを用いながら、系統的に情報収集を行い、応用の事例の健康状態をアセスメントできる。2.患者の看護問題を明確にし、個別性のある看護援助を立案できる。3.導き出した看護援助を安全・安楽に留意して実施できる。4.各領域別臨床実習に向けて、自己の課題を明確にし、課題解決の方法が理解できる。		2	3			

							R5年度 看護学科 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー (DP))						
時間割コード	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	授業の目的(概要)	学修成果(到達目標)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
								豊かな人間性と高い倫理観を備え、人間、健康、社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた看護を提供することができる。	科学的探究心に基づき、最新の科学的知見を活用し、主体的かつ論理的に健康問題を解決することができる。	ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した看護を提供することができる。	対象者の健康問題の解決のために、保健・医療・福祉の関連領域の専門職と連携・協働することができる。	少子高齢化、過疎化、医療の偏在化等によってもたらされる地域の健康問題に対応した看護活動を展開することができる。	社会における保健・医療・福祉の充実と発展に貢献するために、広い国際的視野をもつことができる。
5543140	看護学総合実習Ⅱ	4年			1	既習の看護学実習をふまえ、学生個々がさらに深めたい学習課題を明確にし、主体的に実習を計画および実習することにより、看護学実習における体験や学びを統合し、事故の看護観を深めることができる。	1.自己目標を明確にし、実習計画を立案することができる。 1) 既習の看護学実習を振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。 2) 自己の学習課題に対する実習目標を設定し、実現可能で具体的な実習計画を立案することができる。 3) 実習施設との必要な連絡や調整を主体的に行うことができる。 2.実習計画に基づいて看護実践を行い、自己の実践について評価ができる。 1) 実施、援助の効果を評価することができる。 2) ケアチームの一員としての自覚を持ち、チームメンバーと協働しながら看護を実践することができる。 3.自己の看護観を深めることができる。	1	3	2	3	2	
5535010	看護概論	2年			2	今日、学校教育および学校保健活動において看護教諭の果たす役割は大きく、その専門性を活かした対応が期待されている。この授業では、看護の理念及び看護教諭の職務、看護活動の具体的展開方法について学び、看護教諭としての基礎的知識・技術を習得するとともに、看護教諭の役割と看護教諭の専門性について考察する。	1. 看護の理念を説明できる。 2. 看護教諭の歴史、専門的機能を説明できる。 3. 教育職としての看護教諭の役割を説明できる。 4. 看護活動の種類を説明できる。 5. 看護活動の種類別にその概要を説明できる。 6. 看護教諭としての自らの教育観を深める。	3	3	3	3	3	1
5535020	健康相談論	3年			2	社会の急激な変化により、子ども連にはいじめ・不登校・薬物乱用など様々な健康の現代的課題が増加し、心と体の両面への対応が必要とされている。看護教諭は、児童生徒の心身の変化にいち早く気づくことができる立場にあり、その専門性や保健室の機能を生かした健康相談の重要性が指摘されている。このことから、新たに、2000年度より看護教諭養成カリキュラムに必須の専門科目となった。本授業では、看護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談の基礎・基本と、事例をもとに支援方法の実際について講義・演習を通して学ぶ。特に、健康に関する現代的課題の理解、心の健康問題と身体的症状の関係性の理解と支援、心と体の両面からの対応能力の育成に重点をおく。	1. 看護教諭が行う健康相談について、概念と特質を説明できる。2. 子どものヘルスニーズが説明できる。3. 健康相談の問題理解や相談支援の目標と方法を理解できる。4. 健康相談の実際について説明できる。5. 健康相談における関係者との連携について説明できる。6. 諸問題の背景の分析と解決のための支援を理解できる7. 健康相談における看護教諭の力量について説明できる。	3	3	3	3	3	1